

☆視 点

2013 年上半期の中国の化繊産業

2013 年上半期の中国の化繊業界は、これまでの高成長から大幅な鈍化がみられている。利益は低下、生産の伸びは大幅に減速する一方、新規の生産能力拡大は落ち着いた。

(1) 化繊生産

2013 年 1～6 月の化繊生産量は前年同期比 5.8% 増の 1,990 万トントンとなった。伸び率は前年同期を 8.73 ポイント下回った。品種別にみると、ポリエステルは 6.3% 増の 1,571 万トントンとなった。ポリエステルは化繊総生産量の 79% を占める。レーヨン S は 16.8% 増の 140 万トントンと 2 桁増となった。ナイロンは 13.3% 増の 99 万トントン、アクリルは 1.5% 増の 35 万トントン、スパンデックスは 26.8% 増の 18 万トントンとなった。

稼働率は、第 2 四半期は第 1 四半期より改善した。スパンデックスの稼働率は大幅に上昇したが、ポリエステルは前年同期を下回った。

2013 年上半期の中国の品種別化繊生産

(万トントン)

	生産量	前年同期比
化学繊維合計	1,990	5.8%
セルロース	195	15.5%
レーヨン S	140	16.8%
レーヨン F	11	-6.7%
合成繊維	1,795	4.9%
ポリエステル	1,571	6.3%
ナイロン	99	13.3%
アクリル	35	1.5%
スパンデックス	18	26.8%

(2) 化繊在庫

2013年1～3月期、中国の化繊業界の在庫圧力は大きかったが、4月に繁忙期を迎え、ほとんどの品種の在庫は一定量消化され、在庫は減少した。品種別にみると、ポリエステル短繊維とナイロンの在庫圧力は依然として大きい、スパンデックスの在庫は低水準まで減少した。

(3) 化繊需要

① 国内需要

2013年上半期、国内の衣類需要は引き続き拡大した。規模以上企業の衣類小売額は前年同期比11.9%増の5,415億元となった。全国100の主要百貨店の服装類の販売量は前年同期比4.3%増と前年同期の伸びを3.3ポイント上回った。

産業用繊維需要も拡大している。2013年1～6月の不織布生産は前年同期比12.7%増の126.4万トンとなった。同期間の産業用繊維品の生産増加値は前年同期比14.4%増と業種別では最大で、繊維産業全体の平均(9.6%増)を上回る。

② 輸出

繊維品輸出の伸びは前年より上昇したが、最近伸びが鈍化する兆しがある。2013年1～6月の繊維品輸出は前年同期比11.9%増の1,309億ドルとなった。2012年年間に比べて8.5ポイント伸びが加速している。そのうち、紡織品は9.7%増の544億ドル、衣類等二次製品は13.4%増の766億ドルであった。

(4) 化繊輸入・合繊原料輸入

2013年1～6月の合繊原料輸入は前年同期比20.1%減の690万トンであった。そのうち、PTA、CPLの輸入は約半減となった。これは国内生産が大幅に増加したことによる。また、国内のレーヨン生産が急増したため、レーヨン原料の輸入は前年同期比10.6%増の99万トンとなった。

2013年1～6月の化繊輸入は前年同期比0.7%減の42.0万トンであった。品種別にはアクリルSが最大で0.2%減の10.0万トン、次いで、ナイロンFが2.4%減の8.1万トン、ポリエステルSが11.9%増の5.9万トン、ポリエステルFが5.6%減の5.6万トンであった。

2013年上半期の中国の品種別化繊輸入

(1,000 トン)

	生産量	前年同期比
化学繊維合計	420	-0.7%
ポリエステルF	56	-5.6%
ポリエステルS	59	11.9%
ナイロンF	81	-2.4%
アクリルS	100	-0.2%
レーヨンS	7	-6.3%
スパンデックス	9	-0.5%

(5) 化繊輸出

2013年1～6月の化繊輸出は前年同期比2.1%増の124.8万トンとなった。品種別にみると、ポリエステルFが5.7%増の58.5万トンで全体の47%を占め、次いで、ポリエステルSが1.8%増の33.0万トンで全体の26%を占めた。また、スパンデックスは21.9%の2.6万トンと大幅増となった。

化繊輸出を仕向地別にみると、トルコ、米国、パキスタンの順で多く、それぞれ11.4%、10.4%、9.6%を占めた。ベトナム向けは57.7%の大幅増となり、全体の7.2%を占めた。

2013年上半期の中国の品種別化繊輸入

(1,000 トン)

	生産量	前年同期比
化学繊維合計	1,248	2.1%
ポリエステルF	585	5.7%
ポリエステルS	330	1.8%
ナイロンF	66	13.4%
レーヨンS	102	-15.9%
スパンデックス	26	21.9%

(6) 化繊業界の売上・利益

2013年1～5月の化繊業界の売上は前年同期比4.2%増の2,576億円となった。前年同期の伸び(11.3%増)からは7.1ポイント鈍化している。化繊業界の利益総額は前年同期比6.2%増の69.91億円となった。2013年1～3月は、前年同期比14.4%減と減益であったが、4月以降に

化繊業界の業績は改善した。赤字企業の割合は 30.6%と前年同期に比べ上昇している。ポリエステル業界の利益額は前年同期比 34.7%の大幅減となったが、スパンデックス業界は、過去 2 年の赤字から黒字に転換、レーヨン業界の利益も改善傾向を示している。

(7) 今後の化繊業界の業況に影響を与える要因

① マクロ経済の減速

2013 年上期の GDP 成長率は 7.6%と前年同期を 0.2 ポイント下回った。5~6 月の規模以上工業増加値の伸びは減速した。6 月、製造業購買担当者指数 (PMI 指数) は過去 9 カ月で最低水準まで下がった。このようなデータから、今後経済が減速するリスクが存在する。

② 川中の需要

今年に入り、末端需要の回復から、川下の織機稼働率は 7 割以上まで回復しているものの、特にポリエステルの生産能力の急速な拡大による供給過剰によって、織物業界は一般的に慎重な姿勢を示している。

③原料価格

2013 年の原油価格は安定していない。PX 価格は、前年大きく値上がりしたが、今年は年前半、原油価格の下落、ポリエステル需要の縮小などで春節以後に急速に下落した。綿花価格は 1.95 万元/ト前後で安定、ポリエステル短繊維、レーヨン短繊維市場の安定を支える要因となった。また、綿花価格とポリエステル、レーヨン価格の価格差拡大により、ポリエステル短繊維、レーヨン短繊維に対する需要が増加した。

このように、原油および原料価格とその供給、化繊の生産能力拡大の状況などが市況に影響を与える可能性がある。

(8) 2013 年年間の見通

中国化繊協会によると、2013 年年間の見通しは以下の通り。

- 化繊生産量：2013 年年間生産は前年比 7%増の 4,050 万ト
- 化繊輸出量：前年比 15%増の 280 万ト
- 利益：前年度並みか増加する見込み

(担当：業務調査グループ 鍵山)